

平成9年卒 汗と涙の結晶

- タイムで振り返る記憶に残るレース -

以下は1996年、我々の4年最後のインカレ、エイトの記録である。

C石崎 S薄 7井上 6佐藤(琢) 5山下 4嘉村 3吉村 2前野 B松本

(予選)

早大理工	1'32"66	3'08"97	4'44"89	6'18"53
法政大	1'26"25	2'58"82	4'34"32	6'07"84
近畿大	1'30"01	3'07"16	4'45"45	6'21"46
小樽商大	1'31"54	3'09"97	4'48"39	6'26"91
関西学院大	1'34"25	3'12"55	4'51"36	6'28"59

(敗者復活)

関西学院大	1'35"70	3'14"38	4'51"01	6'30"75
早大理工	1'34"53	3'10"89	4'48"84	6'26"58
東工大	1'30"73	3'05"66	4'42"88	6'20"90
一橋大	1'32"09	3'08"54	4'46"53	6'24"69

予選敗復活落ちだった。予選でのタイムで勝っていた一橋(予選タイム6'27"92)に敗れた。入りの500mでつけられた差をゴールまで縮めることができなかったレースである・・・。



大学4年 インカレ 8+
ストロークサイドの4人
が丸坊主。
パウサイドは?

続いて、1995年、我々が3年のときの軽量級エイトある。順位決定で慶応に僅差で破れて悔しさしか記憶になかったが、今回改めて記録を見ると、敗者復活ではいいレースをしていたんだと思う。

C奥村 S内野 7岡芹 6畠山 5山下 4丹羽 3松本 2前野 B長竹

(予選でのタイム)

早大理工	1'31"14	3'06"25	4'41"63	6'18"48
小樽商大	1'30"29	3'04"38	4'38"36	6'14"96
立教大	1'32"62	3'07"02	4'38"90	6'14"78
北海道大	1'30"98	3'07"77	4'43"11	6'17"96

(敗者復活) 明治大、青山学院大は省略

早大理工	1'32"94	3'07"18	4'42"75	6'18"02
小樽商大	1'30"49	3'04"73	4'40"77	6'15"58
立教大	1'31"39	3'09"91	4'46"88	6'22"91
北海道大	1'30"97	3'06"70	4'44"00	6'19"16

敗復活で当たった学校のうち、予選タイムは4位。敗復活では厳しいレースを強いられた。そして入りの500mは4位。最後のインカレまで、エイトのスタートの難しさは永遠の課題であった。1000mでは3位、1500mでは2位、そのままの差をキープしてのゴールだったことが分かる。敗復活のタイムでは、早大理工は慶応大(予選タイム6'19"25)に勝っていた。準決勝の早大理工と慶応大のタイム、そして、順位決定の結果を見てみよう。

(準決勝のタイム)

早大理工	1'31"48	3'06"13	4'44"86	6'25"30
慶応大	1'32"07	3'07"55	4'47"40	6'27"12

(順位決定)

慶応大	1'33"92	3'12"34	4'51"97	6'31"26
小樽商大	1'33"54	3'11"34	4'50"49	6'29"60
東北大	1'31"67	3'95"6	4'49"11	6'27"32
早大理工	1'33"27	3'11"91	4'52"52	6'31"95

慶応大に僅差で敗れた・・・。我々にはこの記憶だけが残ったレースであった。

その他、我々が経験した主なレース結果を以下に示す。

大学2年 ジュニア 4+ 9位 (C高橋 S内野 3山下 2嘉村 B松本)
練習では、他大とたくさん並べ、実戦経験を積んだ。ラストスパ
ートにこだわった。どこの大学にも負けない武器を持ちたいと思っ
た。予選でふがいない結果を残した夜、整調の内野は頭を丸めた。敗者
復活で、ラスト500m、東大を差しての準決勝進出だった。

大学3年 戸田レガッタ 8+ 4位
早稲田大学体育局漕艇部 = 本チャンの重量級対校エイトに、唯一勝っ
た試合だった。その日、本チャン漕艇部では、特別なイベントがあっ
たらしく、ゴール地点すぐ側の本チャンの船台の上には、60代、
70代というOBが、たくさんレースを観戦していた。OBの方々のあ
んぐり口をあけた顔が忘れられない。

大学3年 東日本インカレ 8+ 優勝
唯一の金メダル。レースで、心の底から結果を喜べるのは、優勝し
たクルーだけ。それを、実体験できたレースだった。

大学4年 全日本選手権 4+ 8位
対校エイトが予選敗復活の中、フォアは、クルー長の吉村のもと、
独自の練習メニューをこなし、慶応大、日大、中部電力、警視庁
BCなどの列強を蹴落としての8位を獲得した。



大学2年 ジュニア 4+



大学3年 東日本インカレ 8+ 金メダル!!

以上、簡単であるが、我々の4年間を振り返ってみた。
4年間という年月の間には、無数のことがあった。たまに、
あの頃の熱い思いを思い出してみたいくなる。そんな時、この
記録が少しでも役立てば幸いである。